

百間廊下

江戸時代に建造された城はたいてい、少なくとも「多門櫓」を一つ備えている－それは両端に見張り台のある部屋で長くそして十分防備が強化された廊下－が無ければどんな城も完成ではなかった。そのような廊下は防衛建造物、生活場所、もしくは倉庫としてその時々ニーズに合わせて使われた。必要が生じれば、解体され城の別の場所に移築することも可能だった。

姫路城の回廊はおよそ 240 メートルある。17 世紀初期、本多忠刻(1596－1626)と千姫(1597－1666)が西の丸で豪華な生活場所を構えていたころ、北の区域とそれにつながる櫓は女中と姫の侍女のための住まいとして使用された。